

書籍化されたオンライン小説

インターネットが身近なものになって久しい昨今、小説はオンラインで読むという方も多いのではないのでしょうか。そこで今回は、インターネットなどで公開された後に書籍化された小説を3冊ご紹介します。

1冊目は、氏田雄介/作『54字の物語』です。

“中央に正方形の原稿用紙”という目を引くデザインが印象的な表紙ですが、実はこの文章、一つの完結した物語なのです。この本は54字ぴったりで完結する物語を90話収録した超短編集です。1ページ目に物語が、ページをめくると、その作品について詳しい解説が載っている2ページ構成で、お話の内容もくすっと笑えるものから、意味が分かるまでに少し時間がかかるもの、読むとなんだか背筋が寒くなるものも…。

なぜ正方形の原稿用紙に書かれているかという点、このお話がもともと画像共有SNS「Instagram」に投稿されていたため。「Instagram」に投稿できる画像の基本の形が正方形だったため、このような独特のスタイルが生まれました。

漢字にはルビが振られているので、子どもから大人まで楽しめる一冊です。

2冊目は、蟬川夏哉/著『異世界居酒屋「のぶ」』です。

京都に店を構える居酒屋「のぶ」。しかし、なぜか店の入り口が中世ヨーロッパ風の異世界に繋がってしまいます。店に訪れるのは、町の衛兵に、職人、お忍びの教職者や貴族など。皆、キンキンに冷えたビールや柔らかい鶏のから揚げなど、現代の居酒屋料理に驚きながらも、舌鼓をうち、日々の疲れを癒します。徐々に繁盛していく「のぶ」ですが、ある日、提供している生ビールが御禁制のものではないかと疑いがかかって…。

お話ごとに登場する様々なお客さんとおいしそうな料理の数々が魅力の全20作の連作短編集です。読むとお腹がすいてくるシリーズです。

3冊目は、アンディ・ウィアー/著『火星の人』です。

宇宙飛行士のマーク・ワトニーは仲間たちとともに火星の調査に来ていました。しかし6日目に大きな砂嵐に襲われ、ワトニーは吹き飛ばされてしまいます。奇跡的に命を取り留めたものの、気が付くと仲間たちはミッションを中止し火星を旅立っており、火星に一人取り残されることに。残されたものは仮設基地とクルー6人の一か月分の食料。次の火星調査は四年後。絶望的な状況のなか、植物学者でエンジニアでもある自身の知識と持ち前のユーモアで、問題に一つ一つ取り組んでいきます。果たして無事地球へ帰ることはできるのでしょうか。

物語はワトニーの日記形式で進んでいき、明るく軽妙な語り口は、読む人に悲壮感を感じさせません。上下巻の二冊構成ですが、そのボリュームを感じさせないほど読みやすく、海外小説を読み慣れていない人にもおすすめです。

おすすめ本コーナーには、今回ご紹介した本のほかにも、書籍化されたオンライン小説を児童書から一般書まで幅広く集めています。ぜひ、図書館にお越しください。